

「水源の里・清水 AtoZ」

発行日 2021年3月31日

制作 京都産業大学現代社会学部滋野ゼミ
足達天音
伊藤颯吾
岡村浩生
木下穂乃香
長岡侑飛

協力 水源の里・清水
滋野 浩毅(京都産業大学現代社会学部教授)
塩見 直紀(半農半X研究所、総務省地域力創造アドバイザー)
水田 ウタコ

発行 あやべ水源の里連絡協議会
(綾部市役所 定住・地域政策課 上林いきいきセンター)
京都府綾部市八津合町上荒木 5
TEL 0773-54-0095
MAIL teijyutiiki@city.ayabe.lg.jp
HP <https://suigen-ayabe.com>



あやべ水源の里公式ホームページ



あやべ水源の里Facebookページ
水源の里の「今」をお届け。
イベント情報や水源の里の四季をどこよりも早くお届けします。

KYOTO AYABE SHIMIZU AtoZ

水源の里 清水 AtoZ



MESSAGE

本冊子は清水の自然風景や人々の暮らしなど様々な情報を詰め込み、たくさんの読者にその魅力が少しでも伝わることを願い、清水集落の方々と学生たちの視点から作成した冊子です。

現在、高齢化が進む清水ですが、そこには歴史を感じるものや豊かな自然、集落の方の温かいコミュニティがあり、至るところに「清水ならではの」魅力がありました。この「清水 A to Z」を手に取り実際に足を運んでいただければ、たくさんの魅力を発見、体感していただけると思います。

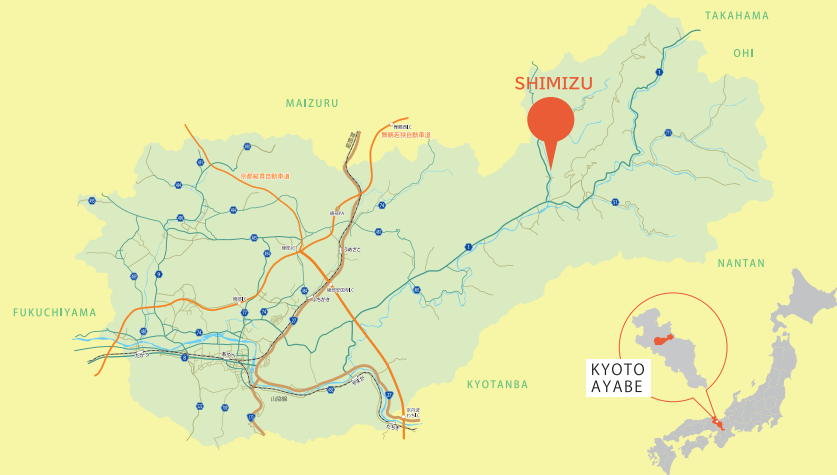
今回は感染症対策を行いながらの活動となりましたが、作成するにあたりご協力いただいた清水の皆様、綾部市職員の方、デザイナーの水田ウタコ様他、多数の方々に感謝申し上げます。

ABOUT

コミュニティでの活動が盛んな清水。住民が主体となって村を盛り上げようと様々な活動を行っています。広大な田園と畑口川を有する自然に溢れた場所です。

水源の里・清水

人口 40人
高齢化率 74.3%
世帯数 20世帯



春

広い田園の稲や畑の野菜の葉、山々の木々の青々とした緑色が溢れる清水の春。野花も咲き出す温かい季節です。

秋

清水に大きく広がる田園に、黄金色の絨毯が出来上がるこの季節。秋葉山の紅葉も魅力的です。

夏

植物が一層生い茂り、畑口川の水のせせらぎが涼しく感じる清水の夏。お盆には帰省者が集うお祭りも開かれ、虫の声と共に賑わいも増します。

冬

冬には紅葉が終わり、雪が深々と清水に降り積もります。春を待つ植物たちが雪の下で静かに冬を越しています。

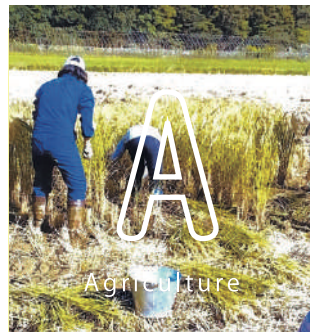
contents

A	Agriculture 農業
B	Bell 鐘
C	Community コミュニティ
D	Den-en 田園
E	En 縁
F	Flower 花
G	Green Shimizu グリーン清水
H	Health 健康
I	I-turn Iターン
J	Jinja 神社
K	Kyorakusha 共楽社
L	Local love 地元愛
M	Mountain 山

3

N	Noryosai 納涼祭
O	Oto 音
P	Progressive 累進的な
Q	Quest クエスト
R	River 畑口川
S	Sumirekai すみれ会
T	Tezukuri no kobo 手作りの工房
U	Umai kome うまい米
V	Vehicle 乗り物
W	Water 水
X	Kemono tai hito 獣×人
Y	Yorokobi 喜び
Z	Zenryoku 全力

4



ここ清水では農業が盛んにおこなわれている。本誌の中盤から後半にかけて述べる稲作はもちろん、令和元年の電気柵整備を経て住民の士気がより一層高まり、各地の畑からとれる野菜や果物もとても素晴らしい産品となっている。

農業



畑口川沿いにある小さな鐘。昔は集落内で誰かが亡くなるといったことを集落の住人に知らせるために使用されていた。今では使用されていないが、「清水区」と刻まれたその鐘からは集落の歴史を感じることができる。

鐘



清水のコミュニティは住民の生活にとっても深く根付いており、集落の住民たちで支えあって生きていることの表れだ。「村用」と呼ばれる集落の住民ぐるみの仕事は、都会に出ている者も帰省し住民総出で行う。こうして住民全員が集落のために協働できるのも清水のコミュニティのおかげだ。

コミュニティ



Den-en

田園

集落に入っすぐ目に留まるのが、12haを有する広大な田園の風景である。その左右を山と川に挟まれ、穏やかな風景が広がる。ここでは後述する「米」が生産されており、春・夏に緑のじゅうたんが広がったかと思えば、秋には黄金色の景色が広がる。その美しさは清水を象徴する自然風景の一つである。



En

縁

清水には「縁」を通じて様々な関わり方がある。「すみれ会」や「共楽社」などの清水地区内での「縁」、田園・水道整備に伴う綾部市との「縁」、遠方にいる清水出身者と定住者との「縁」など様々な縁がある。そうした「縁」の上に、現在の清水の姿があり、この先も様々な枝を広げながらその縁は広がっていく。



Flower

花

府道を車で走っていると至る所に花が咲いている。特に目を引くのが公民館の横にある花畑だ。そこは、「この村に彩りを」という思いから生まれた花畑で、季節によってさまざまな花が咲いており、住民の方の日々の手入れによってより美しく保たれる。しかし、現在は管理する人が減っており、ぎりぎりの状態で続けている。



Green Shimizu

グリーン清水

農地を保つ上で、獣害対策や水路、農道整備などを行うことは必要不可欠である。そんな村の維持にはならない仕事を担うのが「グリーン清水」である。これまでもそしてこれからも清水の農地を守り続ける。



Health

健康

夏休みの早朝になると、子どもたちを中心に集会所前の庭でラジオ体操をする姿が見える。はじめは子どもたちが集まるための体操であったが、大人にも呼びかけ現在では多数の村人で行っている。また、コミュニティナースの指導の下、健康体操や脳トレなどを自治会で積極的に取り入れており、健康で活発な住民が多い。



I-turn

Iターン

清水特有の自然美、集落ならではののどかな暮らし、集落住民の人の温かさがIターン移住を後押しした。現在、Iターン者は2家族であるが、移住者のインタビューの中でも、「ここでの五感で感じる自然の美しさ、人々の温かさ感動し、ここに移住して本当に良かった」と語り、充実した生活を送っている。



Jinja



Kyorakusya



local love



Mountain



Noryosai



Oto

神社
集会所前の「清水合祀神社」は、以前は集落内の山頂などに点在していた6つの社を村の浄財で合祀して建てられた。毎月2回、交代で櫛を備える、7月に祭りを催すなど集落全員の心のよりどころである。

共楽社
清水を元気にすること、酌み交わしと行事を通じて交流することを目的として発足した会。清水出身者で構成されており、大阪、京都など遠隔地にもメンバーがいる。メインの盆の納涼祭では、祭りの屋台の運営を担い、住民や帰省してきた清水関係者の交流を支えている。

地元愛
清水に住む人たちはもちろん、清水から外へ出て行った人たちも行事や村用の際には里帰りをして参加するなど、強い地元愛がある。離れていても地元のことを愛している人、必ず帰ってくる人がいるからこそ活気のある集落になっている。

山
清水は山々に囲まれた村である。昔は夏の暑い時期に住民総出で杉の苗木を背負って登り、草刈りや芽刈りをし、苗木を植えるなど山の整備をしていた。冬には雪が積り、住民は竹を利用して自作のスキーを楽しんだり、「秋葉山」の頂上まで登って遊んでいた。今では整備が難しくなり手つかずになっている。

納涼祭
お盆に開催される納涼祭は、たくさんの方が集まる清水の一大イベント。焼きそばやかき氷、金魚すくい、輪投げなどの定番から、アユの塩焼きといった珍しいものも。定住者と出身者との交流が主な目的で、これを楽しみに帰郷する人や子どもも多く、近況の確認をしかう姿も。

音
ここで耳を澄ませると、音で溢れていることに気づく。風が山を撫でる音や畑口川のせせらぎの音、鳥たちの鳴き声など、自然の音に加え、農作業などの人々の日常の音、お盆の時期には子どもたちのしゃべり声など、自然と人々の豊かな音で溢れている。



Progressive

清水では、「グリーン清水」や「共楽社」などのグループが活気をもって活動している。その活動の原動力には集落への愛の他に、若者が帰ってきたいと思える故郷にしたいという強い思いがある。そんな思いを元に活動する人々の力で今の清水はつながっている。

累進的な



Quest

清水では、集落内で生活していく中で数々の課題にぶつかってきた。それは農作物をめぐっての獣害や水路の整備、合祀前の社への参拝難など多岐にわたる。清水の住民はこういった課題に対して真剣に向き合い、協力して乗り越えてきた。

クエスト



River

山と田畑を分断するように流れる川は「畑口川」と言い、「水源の里・清水」の清流である。昭和28年に水害を起こした歴史もあるが、現在そこでは澄みきった綺麗な水のせせらぎが聞こえてくる。たくさんの魚や生き物が生息し、かつては魚とりや石投げなどをして遊んだという。今も昔も変わらない子ども大好きな場所である。

畑口川



Sumire kai

「すみれ会」は女性のみで構成された清水にあるコミュニティの一つ。最新の機材や、過去に学んだ知識を最大限活かしながら、自ら栽培した大豆や手作りコンニャク、焼き大福やお餅、おはぎなど昔ながらの「おふくろの味」を作り続け、世の中に発信する他、地域の祭りなどで好評を得ている。

すみれ会



Tezukuri no kobo

「すみれ会」の主な活動場所である工房は、住民による手作りである。この工房は「すみれ会」の会員によって作られたものであり、「清水を発展させよう、自分たちで活動しよう」という清水の人々の気持ちが形になった建物である。

手作りの工房



Umai kome

集落中央の田んぼでつくられている米。主に、集落の2農家によって管理、生産されている。そのうまさは集落住民のお墨付きで、ほかの米と食べ比べても「やはりこの米が一番うまい！」という。山間地特有の適度な日照時間と朝夕の寒暖差、横に流れるきれいな川の水などの要素がうまく組み合わせられ、この米のうまさを支える。

うまい米



Vehicle



Water



Kemono X hito



Yorokobi



Zenryoku

こぼれ話
愛宕山

乗り物
 ここ清水には、「あやバス」の愛称で親しまれているあやべ市民バスで綾部駅から訪れることができる。また、綾部市街・舞鶴ともに車で20分というアクセスの良さから、清水の人の多くは車を利用している。自分の車を所有し、自分で運転する人が多い点は、元気で活発な人が多い清水らしいところである。

水
 ここ清水には、その地名にもあるようにきれいな水が流れる。昭和から平成初期にかけて、鏡谷、井関谷に流れる川の水を高台まで引き上げ、全戸に配水していたが、降水量が減り断水することも多々あった。水問題の解決のために、自治会をはじめとした集落住民が様々な策を出した。畑口上水道の設置により問題は解決し、集落の結束力の高さが示された。

獣X人
 清水での生活において、今も昔も獣との戦いは常に存在している。特にサルによる農作物への被害が甚大で、農作物を育てる人の気力まで奪ってしまうほどだった。しかし、最新のサル用電気柵の一斉導入により、サルはもちろん、獣の被害は格段に減少、文明の利器を使いこの村の農業を守ることができた。

喜び
 清水の住民は集落に対しての課題に向き合い、活動を行っている。課題への対処には集落の全員で取り組み、それをやり遂げた際には誰もが強い喜びを感じたのだと清水の人々は今も嬉しそうに語る。

全力
 清水の人たちは地域のために全力を尽くして活動している。女性が活躍する「すみれ会」、地区の農業だけでなく景観も良くしていくために活動する「グリーン清水」、地域の活気のために活動する「共楽社」などのコミュニティはもちろん、住民一人一人の全力の試行錯誤と行動が清水を活気ある集落にしている。

毎年1回、年をまたいだ頃に火を納める愛宕山に参拝をする。昔は全員で参っていたこともあったが、現在は自治会から2人は参るようになっている。
 その背景には集落の高齢化がある。年を感じさせない元気さが印象的だが、それでも住民の大半が65歳を超え、高齢化が進んでいるのは事実だ。その他、村の維持や各種イベントも高齢化した住民たちが行っている。「若い者がかえってきたいと思える、そんな故郷にしたい」という言葉が印象に残った。



小室 直樹 清水自治会長

清水にはなんにもないと思っていましたが、今回の学生さんとの交流を通じて、風景、神社、納涼祭などなかなかええトコあるなと思いを新たにしました。このAtoZが名刺代わりとなって、清水を知らない人はもちろん、世代を超えた未来の清水の住民ともつながりができるのでは、と期待しています。

鎌部 幸枝 すみれ会 会員

この度の取り組みで改めて清水の素晴らしさに気付きました。自然豊かな山や川、四季折々の草花が、心豊かにして来れ



る人々の温かい心遣いが移住してこられた方々もすぐに馴染まれ、大雪には高齢者宅の雪かきもして下さいました。みんなが寄り添い、支え合う住み良い自治会です。

鎌部 末子 すみれ会 会員



少しずつ高齢化しているが、今の元気なパワーで協力し合いながら集落を守っていききたい。視野を広げ、若い人との交流などで清水の良い所を見直し、古い慣習にとらわれず、仲良く前向きに過ごしたい。

中嶋 靖 共楽社 代表

「清水」は四季の移ろいが感じられる所である。春、夏、秋、冬、それぞれの息吹を感じ、獣を横目に見ながら、森、木々、田畑の変化を体を感じ、季節ごとのライフスタイルを楽しみながらすごす、今日この頃です。



井関 三千子 すみれ会 会長

木々が芽吹き蛍が舞い、お盆は孫たちが帰省し賑わう。稲穂が黄金色に山々も紅葉に包まれ始めると鹿の鳴き声で秋の終わりを告げ、木々は落葉して冬景色と変わる。四季を感じ自然を守ってきたが、高齢化で限界集落→消滅集落になるのではと心配。都会から人々を呼び住民と交流を通し関係人口を増やすことで活性化に繋がる。



鎌部 勉武 グリーン清水 代表

これからも地域の土地や田畑が荒れないよう皆で協力して守りながら、若い人たちが住みやすい所になってほしい。休みの日だけでも一人でも多くの方がふるさとに戻って里山を守ってほしい、川を大切にし清水の名のとおりきれいな水でおいしい米を作っていきたい。



足達 天音 京都産業大学滋野ゼミ

今年度は多くの制約がある中でやり方を模索しながらの活動となりましたが、多くの方からの協力のおかげで清水の魅力の詰まった冊子にすることができました。ステイホーム下だからこそ清水地区と読んでくださる方達を繋げられる冊子になれば幸いです。



岡村 浩生 京都産業大学滋野ゼミ

この状況下でなかなか現地に行くことが出来ませんが、様々な方の協力の下で清水の素晴らしさを伝えられるものができました。世間が落ち着いた時、実際に観に行きたいと思っていただけの一冊だと思います。



長岡 侑飛 京都産業大学滋野ゼミ

今年度は感染症の影響で満足に活動することは出来ませんでした。様々な方のご協力の下、冊子を完成させることができました。私たちが感じた清水の魅力が読んでくださる皆様に伝わればと思います。



伊藤 颯吾 京都産業大学滋野ゼミ

今年度は感染症対策を行いながらの制作だったので、なかなか自分の思うような活動が難しい状況でしたが、さまざまな方のご協力の下、完成することができました。この清水という集落の魅力が少しでも伝われば幸いです。



木下 穂乃香 京都産業大学滋野ゼミ

私自身綾部を訪れたことがなく、コロナの状況下の中、思うように活動が進まず不安も募りましたが、清水の方々の沢山のご協力のおかげで清水の魅力が詰まった冊子を作成することが出来ました。沢山の人の清水の魅力がお届け出来たらと思います。



滋野 浩毅 京都産業大学教員

今年度の『AtoZ』はコロナ禍の影響で、十分な現地調査ができない中での冊子作成となりました。それでもオンライン取材を駆使したり、水源の里・清水の皆様、綾部市定住・地域政策課の皆様のおかげで、これまでと遜色のないものができたこと、改めて御礼申し上げます。